

産科医療体制検討専門委員会

(令和5年度)

産科医療体制検討専門委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 産科医療体制検討専門委員会

委員長 工藤 美樹

産科医療においては産婦人科医の減少や少子化などの環境の変化がある中で、第8次保健医療計画の策定に向け、質の高い安全な周産期医療体制を維持していくための今後の産科医療体制の在り方について検討を行ってきた。その過程において、今年度より新たに設置された「広島県周産期・小児医療協議会及び部会」において「周産期医療対策」、「小児医療対策」および「産科・小児科における医師確保対策」について協議した。

I. 産科医師数の現状と課題

広島県における産科医師数は、ここ20年間において増加していない。15-49歳の女性人口10万人当たりの医師数においては、診療所に勤務する産科医師は19.0人（全国平均16.7人）であるが、病院に勤務する産科医師は26.2人（全国平均30.0人）で全国平均を下回っている。また、広島県の分娩取扱医師

の偏在指数は8.6（全国平均10.6）と全国41位であり、下位の33.3%の範囲にある（表1）。特に広島西医療圏、広島中央医療圏、福山・府中医療圏の3つの圏域が下位33.3%の範囲に含まれている。すなわち、総数として産科医師が不足しており、特に上記の3圏域に配慮しつつ、県全体で産科医師の確保や地域偏在の解消を目指す必要があると考えられる。

II. 産科医師確保のための対策

医師の確保、育成に関しては、広島県地域医療支援センターによる総合的な医師確保対策に加えて、医療機関が支給する分娩手当などへの財政的な支援を行い、処遇改善に取り組むことにより、医師の確保と定着を図る必要がある。また、限られた医療資源の重点化、集約化を図り、産科医療提供体制を維持するとともに勤務環境の改善を推進する必要がある。

表1 広島県の分娩取扱医師偏在指標

| 区分 | 地域 | 医師偏在指数 | 全国順位 | 備考 | 全国状況 |
|---------------------|-------|--------|------|---------|-----------------------------|
| 三次保健医療圏 (都道府県) | 広島県 | 8.6 | 41位 | 相対的医師少数 | 全国平均値：10.6 (全医療圏284) |
| 二次保健医療圏 (周産期医療圏) | 広島 | 9.9 | 114位 | | |
| | 広島西 | 3.9 | 269位 | 相対的医師少数 | |
| | 呉 | 9.9 | 111位 | | |
| | 広島中央 | 6.0 | 249位 | 相対的医師少数 | |
| | 尾三 | 9.4 | 130位 | | |
| | 福山・府中 | 7.6 | 186位 | 相対的医師少数 | |
| | 備北 | 9.1 | 139位 | | |

出典：厚生労働省「分娩取扱医偏在指標」

広島県地域保健対策協議会 産科医療体制検討専門委員会

委員長 工藤 美樹 広島大学大学院医系科学研究科産科婦人科学
委員 今井真由美 広島県健康福祉局医療介護政策課
熊谷 正俊 市立三次中央病院
児玉 順一 広島市立広島市民病院
小林 真紀 広島市健康福祉局保健部医療政策課
坂下 知久 JA尾道総合病院
田中 教文 東広島医療センター
田中 美佳 広島県助産師会
土谷 治子 土谷総合病院
寺本 秀樹 庄原赤十字病院
豊田 紳敬 広島県産婦人科医会
中西 敏夫 広島県医師会
中西 慶喜 JA広島総合病院
早田 桂 福山市民病院
藤原 久也 中国労災病院
水之江知哉 呉医療センター・中国がんセンター
茗荷 浩志 広島県医師会
三好 博史 県立広島病院
向井百合香 広島大学大学院医系科学研究科産科婦人科学
山本 暖 福山医療センター